

# 弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

弥栄ダムの流域では、7月5日から7月7日にかけて梅雨前線の影響による豪雨により、ダム上流域での流域平均雨量は369mmを記録しました。

弥栄ダムでは、ダムへの流入量が最大で860m<sup>3</sup>/Sに達し、このうち毎秒約560m<sup>3</sup>の洪水をダムに貯めました。

この結果、山口県岩国市小瀬の小川津地点(弥栄ダム下流2.5km地点)の水位を約2.4m低減させる効果があったと推定され、危険箇所の浸水を回避することができました。

仮に、ダムが特別防災操作をしていなければ、氾濫により約3.8ha・26戸の浸水被害が発生していたものと推定されます。

## 今回の洪水のダムへの貯留状況

ダム貯水位(通常時)



ダム貯水位(7日14時時点)



最大流入量  
毎秒約860m<sup>3</sup>

今回出水の最高水位 EL115.21m (7月7日15:10)

貯水位が10.05m上昇(貯留分)

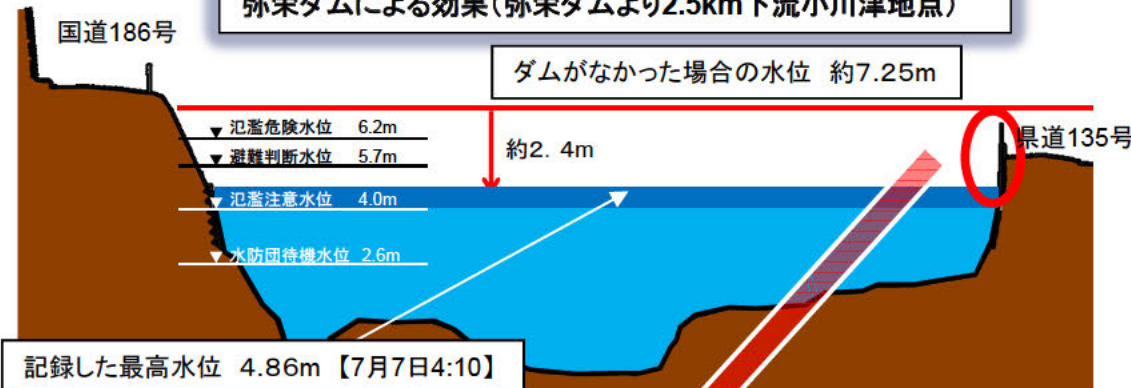
雨の降り始めの水位 EL105.16m (7月5日0:00)

弥栄ダム

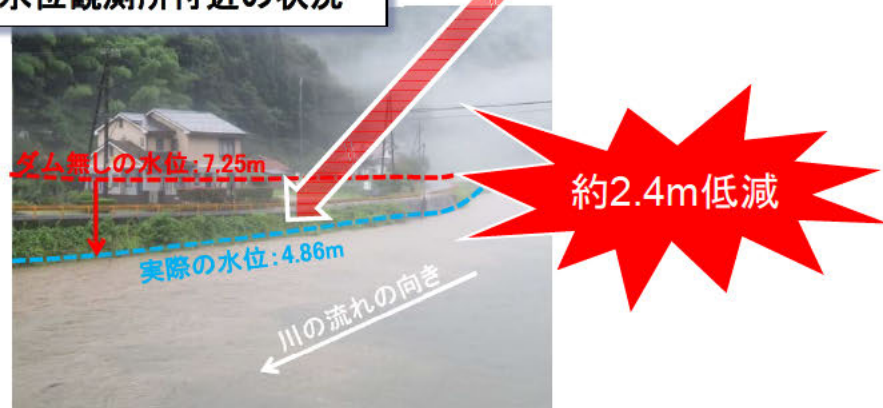
最大流入量時の  
放流量  
毎秒約300m<sup>3</sup>

特別防災操作による貯留量は約2,122万m<sup>3</sup>  
洪水調節容量のうち34%を用いて貯留

## 弥栄ダムによる効果(弥栄ダムより2.5km下流小川津地点)



## 小川津水位観測所付近の状況



## ダムがなかった場合の被害シミュレーション



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。

# 弥栄ダムの「特別防災操作」による治水効果(平成30年7月豪雨)【速報】

